

令和5年度

運営に関する計画



大阪市立常盤小学校

大阪市立常盤小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校には1300名近い児童が本校(4学年)、分校(2学年)に分かれて在籍している。大阪市でも有数の大規模校であるにもかかわらず、運動場は中規模校と同程度の広さしかなく、どの学級教室も定員いっぱいの児童がひしめき合って活動している状況である。校内の児童人口密度が高いことに加え、校舎間の移動、校舎から講堂への移動にあたっては、一般道路を横断せざるを得ない構造になっており、学校環境の側面から考えたとき、児童の精神的ストレス度合は他の小学校児童と比べて極めて高いといえる。そのことの弊害として、ケガや、児童間のいざこざをはじめとする生活指導上の問題発生が比較的多い状況がある。この解消にあたっては、単に「規則遵守の指導の徹底」だけでは不十分であり、児童の規範意識の醸成に向け、道徳的な判断力等の育成、自他を尊重する態度の形成、危機回避意識の育成を図ることが重要と考える。

- 本校の児童は、教職員の熱心な授業研究・教材研究により、学習に対して意欲的に取り組むことができおり、学力については、例年、全国学力・学習状況調査においては全国平均を、大阪市小学校学力経年調査においては大阪市平均をおおむね上回る成績を残している。

児童の学力向上にあたっては、教員の研究研修は欠かすことはできないものであり、とりわけ、児童の実態(理解度・関心度等)を踏まえ、児童が意欲的に取り組み、「わかる・できる」授業を提供していかなければならないと考える。そのためには、学習指導要領の改訂内容をふまえ、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」をテーマにした全学年による社会の研究をはじめ、指導の充実や授業力の向上および経験の少ない教員の育成等、授業研究を軸とした校内研修を充実させていく必要がある。また、授業内容に応じて、ICT機器を活用し、児童一人一人の能力や特性に応じた指導を充実させ、授業の質を向上させていく必要性もあると考えている。

体力の向上にあたっては、冬季におけるかけあしタイム・なわとびタイムの設定、体育授業における運動量の確保等、全校を挙げて取り組みを行ってきた結果、前述したように一人当たりの運動できる場所は他校と比べて圧倒的に少なく、地域にも運動できる場所が少ないにもかかわらず、「全国体力・運動能力、運動習慣調査」における全国平均得点、大阪市平均得点との差は徐々に縮小してきた。今後も、体育的活動の工夫、体育授業の改善をはかっていくことにより、体力の向上を図っていく。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- 1 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、令和4年度と比較して増加させる。
- 2 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和3年度末と比較して減少させる。

- 3 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を令和3年度末と比較して増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 1 大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を、令和3年度と比較して増加させる。
- 2 大阪市小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、令和3年度の正答率と比較して、いずれの学年も1ポイント向上させる。
- 3 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童（5・6年生）の割合を71%以上にする。
- 4 大阪市小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、令和3年度と比較して増加させる。
- 5 大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、令和4年度と比較して増加させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 1 教育情報利用パソコン（教員用・児童用）を活用した授業を、毎日行う。
- 2 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を、基準1・基準2ともに、令和4年度末の大阪市の目標値（基準1：49.7%以上 基準2：75.4%以上）に近づける。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

全市共通目標

- 1 大阪市小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を75%以上にする。
- 2 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 3 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 4 学校アンケートの「自分にはよいところがありますか」の項目について、「いいえ」と答えた児童の割合を低学年は4%以下、中学年は7%以下、高学年は10%以下にする。
- 5 防災・減災教育を計画的・継続的に実施する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 1 大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自

分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を、37%以上にする。

- 2 大阪市小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 3 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童（5・6年生）の割合を71%以上にする。
- 4 大阪市小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。
- 5 大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。

学校の年度目標

- 6 学校アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の項目について、肯定的回答の割合を全体の90%以上にするとともに、否定的回答の割合を全体の5%未満にする。
- 7 学校アンケートの「すすんで運動や外遊びに取り組むことができましたか」の項目について、最終評価時の肯定的回答の割合を中間評価時よりも向上させる。
- 8 保健指導・委員会活動の取り組みを通して、児童向け学校アンケートの「正しい手の洗い方の大切さとはんかちの携帯を意識した。」の項目について、肯定的な回答の割合を全体の85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

学校の年度目標

- 1 教育情報利用パソコン（教員用・児童用）を活用した授業を、低学年は週2回以上、高学年は週3回以上行う。
- 2 自校の教員の一人当たり平均時間外勤務時間を、自校の令和3年度の同月より減少するようにする。

大阪市立常盤小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安心・安全な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>1 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 75% 以上にする。</p> <p>2 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>3 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>4 学校アンケートの「自分にはよいところがありますか」の項目について、「いいえ」と答えた児童の割合を低学年は 4 % 以下、中学年は 7 % 以下、高学年は 10 % 以下にする。</p> <p>5 防災・減災教育を計画的・継続的に実施する。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1－5 防災・減災教育の推進】</p> <p>災害発生時においても自ら危険を回避し自らの命を守る行動をとることができるよう、実質的な防災教育を推進する。</p>	
<p>指 標</p> <p>地震・津波・火災・防犯の避難訓練を年間 3 回、保護者の引き渡し訓練を 1 回予定通り実施し、「自らの命を守る行動」をとることができるよう取り組む。（学校の年度目標 5 の達成）</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 2－1 道徳教育の推進】</p> <p>自らを律しつつ、他者とともに協調し、他者を思いやる心や感動する心を育てるため計画的な道徳授業の実践を行う。</p>	
<p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全市共通目標・学校の年度目標 1, 4 の達成。 人権教育において、仲間づくりの領域を重点的に取り入れて実践する。 年間 35 時間以上の授業時数を確保し、各学年で定められる全ての内容項目について授業を行う。 道徳科研修会を年間 2 回以上実施する。 	

取組内容③ 【基本的な方向 1－2 不登校への対応】

不登校をはじめとし様々な課題を有する児童が安心して登校できる学校づくりを進める。

指 標

- ・ 全市共通目標・学校の年度目標 2, 3 の達成。
- ・ 子どもの人権や多様性を尊重するとともに、その見地から指導の内容、児童への対応の仕方、カウンセリングのスキルを身につけられるよう、年 3 回以上研修を行う。
- ・ 児童が 3 日以上続けて欠席した場合は、直ちに児童の心理的状況の把握と保護者への聞き取りをし、管理職に報告する。場合によっては、教職員間で連携、協力し早期対応を図る。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 / 次年度への改善点

全市共通目標・学校の年度目標について（達成状況）

【結果と分析】

・

【次年度への改善点】

・

取組内容①について（進捗状況）

【結果と分析】

・

【次年度への改善点】

・

取組内容②について（進捗状況）

【結果と分析】

・

【次年度への改善点】

・

取組内容③について（進捗状況）

【結果と分析】

・

【次年度への改善点】

・

大阪市立常盤小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を、37%以上にする。 2 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 3 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童（5・6 年生）の割合を 71%以上にする。 4 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。 5 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 学校で実施している学校アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の項目について、肯定的回答の割合を全体の 90%以上にするとともに、否定的回答の割合を全体の 5%未満にする。 7 学校で実施している学校アンケートの「すすんで運動や外遊びに取り組むことができましたか」の項目について、最終評価時の肯定的回答の割合を中間評価時よりも向上させる。 8 保健指導・委員会活動の取り組みを通して、児童向け学校アンケートの「正しい手の洗い方の大切さとはんかちの携帯を意識した。」の項目について、肯定的な回答の割合を全体の 85%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向４－１ 言語活動・理数教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを深めたり広げたりすることができるような、話し合い活動の充実を図る。 ・ 宿題や家庭学習の内容を検討し、計画的・継続的に提供する。 ・ １，２年生について、校長経営戦略支援予算を活用して、国語科と算数科の「標準学力調査」を実施する。 ・ C-NET と連携して、授業の工夫に努める。 ・ 専科指導（理科５・６年、英語５・６年、体育２・３年）を充実させる。 <hr/> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全市共通目標・学校の年度目標１～４、６の達成。 ・ 学校アンケートの「学校の授業以外に、ふだん、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問において、全学年で３０分以上と回答する児童の割合を９０％以上とする。 ・ 「標準学力調査」の結果から、児童一人一人の学力を把握・分析し、学習指導等に活かす。 	
<p>取組内容②【基本的な方向４－２「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「考えたり、自分の考えを表現したりする力」を高める研究活動を進め、日常の授業改善に生かす。 ・ 個々の指導力を高めるため、校内研修を充実させる。 <hr/> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業研究を各学年１回、年間６回以上行う。 ・ 全教員が１回以上の授業研究もしくは公開授業を行う。 ・ 研修会を年間４回以上実施する。 ・ 各学年の学力向上のための具体的な取り組みを、年度末に交流する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向５－１ 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <p>将来にわたって、たくましく生きるための健康習慣や体力を養う。</p> <hr/> <p>指 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全市共通目標・学校の年度目標５、７の達成。 ・ 時期に応じてかけ足週間やなわとび週間などを設定する。 ・ 若手教員を中心とした指導力向上を図るための校内研修を、学期ごとに実施し、年間を通して３回以上実施する。 	

取組内容④【基本的な方向 5－2 健康教育・食育の推進】

- ・ 正しい手洗いの仕方及び、ハンカチの携帯を確認することで手洗いの大切さについての意識づけを図る。
- ・ 食に関する指導や給食だよりの発行などを通して、食習慣の確立を図る。将来にわたって、健康で過ごすための正しい姿勢を身につける。

指 標

- ・ 学校の年度目標 8 の達成。
- ・ 学期に 1 回「手洗い強調週間」を設け、正しい手洗いの習慣が身につくようにする。また、月 1 回「洗った清潔なハンカチ調べ」を行い、携帯率を 85 %以上にする。
- ・ 各学年栄養指導を 1, 2 年生は年 3 回、3～6 年生は年 2 回行い、給食だよりを毎月 1 回発行する。
- ・ 姿勢についてのコーナーを設け、保健だよりを毎月 1 回発行する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 / 次年度への改善点

全市共通目標・学校の年度目標について（達成状況）

【結果と分析】

・

【次年度への改善点】

・

取組内容①について（進捗状況）

【結果と分析】

・

【次年度への改善点】

・

取組内容②について（進捗状況）

【結果と分析】

・

【次年度への改善点】

・

取組内容③について（進捗状況）

【結果と分析】

・

【次年度への改善点】

・

取組内容④について（進捗状況）

【結果と分析】

・

【次年度への改善点】

・

大阪市立常盤小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 <div> <div>全市共通目標</div> <div>学校の年度目標</div> </div> <ol style="list-style-type: none"> 教育情報利用パソコン（教員用・児童用）を活用した授業を、低学年は週 2 回以上、高学年は週 3 回以上行う。 自校の教員の一人当たり平均時間外勤務時間を、自校の令和 4 年度の同月より減少するようにする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6－1 ICT を活用した教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、ICT を効果的に活用し、教育の質の向上を目指す。 ICT を活用して、やむを得ず登校できない児童の家庭とのコミュニケーションを維持し、学習保障を行う。 学校ホームページや vimeo を活用し、保護者・地域に向けて積極的に情報を発信する。また、保護者連絡メール配信システムや Teams 等を活用し、家庭との連絡を取りやすいような環境整備を行う。 	
指 標 <ul style="list-style-type: none"> 教育情報利用パソコン（教員用・児童用）を活用した授業を、低学年は週 2 回以上、高学年は週 3 回以上行う。 プログラミング、協同学習支援ツールに関する研修を実施する。 欠席児童や家庭から希望等があった場合には、双方向通信アプリ等を活用して、連絡を取り合い、授業や学習課題の配信を週に 3 回以上行う。 学校ホームページやミマモルメなどを活用し、配布文書を削減する体制を整えていく。 	
取組内容②【基本的な方向 7－1 働き方改革の推進】 <ul style="list-style-type: none"> 業務の役割分担や学校行事の実施方法などの見直しを行い、より効率的な方法・手段にするよう検討を進める。 業務や行事などについてアンケート等で意見を集約し、見直しや改善につなげる。 標準授業時数を確保しながら 5 時間授業日の設定や、学校閉庁日の設定など、多忙化を解消し、ゆとりを生み出すための取り組みを行う。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の働き方の改善に向けた取り組みについて、保護者・地域にプリントを配付する等して、理解と協力を求める。 ・ 教職員は、勤務時間を意識した働き方を行う。 ・ スクールサポートスタッフを活用し、プリントの印刷や教材作成を行わせるなどして、教員の業務軽減を図る。 	
指 標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全市共通目標・学校の年度目標 2 の達成。 ・ 教員一人当たりの平均時間外勤務時間を、令和 4 年度の大阪市の校種別の平均時間に近づけるようにする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<div>全市共通目標・学校の年度目標について（達成状況 ）</div> <p>【結果と分析】</p> <p>・</p> <p>【次年度への改善点】</p> <p>・</p>	
<div>取組内容①について（進捗状況 ）</div> <p>【結果と分析】</p> <p>・</p> <p>【次年度への改善点】</p> <p>・</p>	
<div>取組内容②について（進捗状況 ）</div> <p>【結果と分析】</p> <p>・</p> <p>【次年度への改善点】</p> <p>・</p>	